

## 事務局報告

## 第80回(2019年度第4回)幹事会(新旧合同)

## 議事要録

日時: 2019年10月19日(土) 14:00~17:00

場所: 京都大学総合博物館 セミナー室

出席者: 高原会長, 能城新会長, 鈴木庶務幹事, 村上新庶務幹事, 山川会計幹事, 井上広報・渉外幹事, 西内新広報・渉外幹事, 工藤編集委員長

## 報告事項

1. 会員動向: 2019年9月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名, 賛助会員1社, 一般会員270名, シニア会員21名, 学生会員27名, 団体会員4団体)。2019年度(2018年10月1日から)の増減は, 入会者8名(一般会員1名, 学生会員7名), 退会者7名(一般会員4名, 学生会員3名), シニア会員への区分変更は7名で, 会員数は増減がない。
2. 会費納入状況: 会費納入状況について報告された。
3. 植生史研究の編集状況: 第28巻第1号が刊行に向けて準備中であることが報告された。

## 審議事項

1. 会員名簿の作成について: 会員名簿は従来どおり紙媒体での発行とし, 返信票をメール添付でも送信できる方式で作成することについて, 承認された。
2. 第34回大会, 第47回談話会について: 2019年12月6日(金)~9日(月)に豊橋市自然史博物館にて行う大会の詳細について, 第3報(最終報)として大会プログラム等を公開することが承認された。
3. 会則の改正について(役員任期): 役員任期に関する会則の改正について評議員会および総会に諮ることとした。
4. 内規の改正について(優秀発表賞研究奨励費): 優秀発表賞研究奨励費について審議し, 内規の改正を評議員会および総会に諮ることとした。
5. 次回幹事会の日程: 第81回幹事会を12月6日(金)に開催することとした。

## 第81回(2020年度第1回)幹事会 議事要録

日時: 2019年12月6日(金) 14:00~17:50

場所: 豊橋市自然史博物館 講堂

出席者: 能城会長, 高原前会長, 村上庶務幹事, 鈴木前庶務幹事, 山川会計幹事, 西内広報・渉外幹事, 井上前広報・渉外幹事, 工藤編集委員長, 吉田編集副委員長, 那須行事委員長, 林行事副委員長

## 報告事項

1. 総会議長推薦者: 2020年度総会の議長について報告された。
2. 会員動向および会費納入状況: 2019年9月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名, 賛助会員1社, 一般会員270名, シニア会員21名, 学生会員27名, 団体会員4団体)。2019年度(2018年10月1日から)の増減は, 入会者8名(一般会員1名, 学生会員7名), 退会者7名(一般会員4名, 学生会員3名, 団体会員1団体)で, 会員数は1名と1団体減少し, シニア会員への種別変更が7名あった。
3. 第5回学会賞および第5回論文賞について: 第5回学会賞および第5回論文賞の選考結果について報告があり, 大会において表彰されることが了承された。
4. 植生史研究の編集状況: 第28巻第2号が刊行に向けて準備中であることが報告された。

## 審議事項

1. 植生史研究の価格変更について: 植生史研究の販売価格について検討し, 第26巻第2号までを1号あたり1冊500円にて販売することとした。
2. 会則の改正について(役員任期): 役員任期に関する会則の改正について評議員会および総会に諮ることとした。
3. 内規の改正(優秀発表賞研究奨励費): 優秀発表賞研究奨励費に関する内規の改正について評議員会および総会に諮ることとした。
4. 第13回奨励賞の応募要項について検討し, 大会で告知することとした。
5. 第35回大会について: 第35回日本植生史学会大会を2020年10月31日(土), 11月1日(日)に帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)にて開催するべく準備することとした。大会実行委員長: 中山誠二氏とする。
6. 次回幹事会日程について: 次回幹事会は2020年2月に明治大学にて開催することとした。

## 2020年度評議員会 議事要録

日時: 2019年12月7日(土) 11:00~12:50

場所: 豊橋市自然史博物館 講堂

出席者: 西田治文, 守田益宗, 百原新 評議員, 能城会長, 高原前会長, 村上庶務幹事, 鈴木前庶務幹事, 山川会計幹事, 西内広報・渉外幹事, 井上前広報・渉外幹事, 工藤編集委員長, 吉田編集副委員長, 那須行事委員長, 林行事副委員長

## 報告・審議事項

1. 2019年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。
2. 2020年度事業計画の幹事会案を審議し、承認した。主な案件は以下の通りである。
  - 1) 会計収支を適切な状態に維持するべく、委託料の見直しを進めるとともに、「植生史研究」バックナンバーの保管分軽減などを進めて支出の削減を検討することとした。
3. その他、次の案件について審議した。
  - 1) 会員数減少への対策について：今後数年で会員数の減少が見込まれることについて、若年会員の獲得に向けて初心者向けの談話会を充実させて入会を勧めるなどの対策が必要であることが確認された。
  - 2) 「植生史研究」PDF公開の方式について：現在は会誌全冊でなく論文や短報ごとの公開になっている。全冊の公開や、個々の論文を引用されやすくする公開の方式について、引き続き幹事会で協議することとなった。
  - 3) 国際学会への参加助成について：ここ2年は応募がなく助成を行っていないが、予算のことも考慮しつつ、助成制度の存在について周知を図り、学生会員の国際学会参加を促す必要があることが確認された。

## 2020年度総会議事要録

日時：2019年12月8日(日) 11:35～12:20  
 場所：豊橋市自然史博物館 特別企画展示室  
 議長：山本直人

## 報告事項

1. 2019年度事業報告
  - 1-1. 庶務
    - 1) 会員動向(2019年9月30日現在)：名誉会員3名、賛助会員1社、一般会員270名、シニア会員21名、学生会員27名、団体会員4団体  
 前年度比：名誉会員±0名、賛助会員±0社、一般会員-10名(入会+1名、シニア会員への種別変更-7名、退会-4名)、シニア会員+7名(一般会員からの種別変更+7名)、学生会員+4名(入会+7名、退会-3名)、団体会員-1団体。
    - 2) シニア会員を募集し、応募のあった7名の会員について承認した。
    - 3) 2019年度評議員会を2018年11月10日に、総会を11月11日に滋賀県立琵琶湖博物館にて開催した。
    - 4) 第12期会長選挙および評議員選挙を実施した(選挙管理委員長 小椋純一)。第12期会長に能城修一氏、第12期評議員に佐々木由香氏、高原 光氏、百原 新氏、

守田益宗氏が選出された。

- 5) 第12期役員の編成を行い、庶務幹事を村上由美子氏に、会計幹事を山川千代美氏に、広報・渉外幹事を西内李佳氏に、編集委員長を工藤雄一郎氏に、同副委員長を吉田明弘氏に、行事委員長を那須浩郎氏に、同副委員長を林 竜馬氏にそれぞれ委嘱した。なお自然史学会連合担当幹事は未定である。
  - 6) 幹事会を2018年11月9日に滋賀県立琵琶湖博物館において、2019年3月30日にweb会議形式にて、8月3日に京都府立大学において、10月19日に新旧合同幹事会として京都大学総合博物館において開催した。
  - 7) 会員名簿の発行準備を行った。
  - 8) 国際シンポジウム「料紙研究×自然科学：古文書研究の新展開」(2019年11月23日)を後援した。
  - 9) 国際会議等への参加助成を行った。応募者はいなかった。
- 1-2. 広報・渉外
    - 1) ニュースレター47号、48号、49号を編集、刊行した。
    - 2) メーリングリストによる情報配信を適宜行った。
    - 3) ホームページの保守管理および更新を行った。
    - 4) 会誌「植生史研究」第26巻第1号のPDF化とホームページでの公開を行った。
  - 1-3. 編集
 

会誌「植生史研究」第27巻第2号、第28巻第1号を編集、刊行した。
  - 1-4. 行事
    - 1) 第33回大会を滋賀県立琵琶湖博物館との共催で2018年11月10日・11日に滋賀県立琵琶湖博物館(草津市)において開催した。参加者は85名であった。大会実行委員長：山川千代美、大会実行委員：林 竜馬、村上由美子、西原和代、佐々木尚子、那須浩郎。
    - 2) 第45回談話会を2018年11月12日に開催した。テーマは「琵琶湖と水月湖：埋没林・化石林と湖沼堆積物研究の最前線」とし、参加者は24名(一般・シニア会員21名、学生会員3名)であった。案内人：山川千代美(滋賀県立琵琶湖博物館)、小島秀彰(若狭三方縄文博物館)、北川淳子(里山里海研究所)、世話人：林 竜馬、那須浩郎。
    - 3) 第46回談話会を2019年6月29日・30日に開催した。テーマは「使ってみようNEOTOMAとTillia」とし、参加者は8名(一般会員5名、学生会員2名、非会員1名)であった。講師：高原 光、佐々木尚子、林 竜馬。
    - 4) 第34回大会を2019年12月7日・8日に豊橋市自然史博物館(豊橋市)において開催するべく準備した。
    - 5) 第47回談話会を2019年12月9日に第34回大会の巡検として行うべく準備した。

## 2019年度決算報告(2018年10月1日～2019年9月30日)

取 入	2019年度予算	2019年度決算	
一般・シニア・学生会員会費	1,767,000	1,618,000	
団体・賛助会員会費	60,000	52,000	
会誌売上	25,000	7,800	特別号を含む
利息	20	37	
大会貸付金返金	0	150,579	剰余金寄付を含む
学術著作権	25,000	25,425	
小計	1,877,020	1,853,841	2018年度大会剰余金
前年度繰越金	5,206,763	5,206,763	
取入合計	7,083,783	7,060,604	
支 出			
学会事務委託経費			
基本業務委託	450,000	476,312	受付業務120,000円、会員管理700円×342人、メーリングリスト配信管理15,000円、会誌発送1回等
発送手数料	105,000	120,425	会費請求3回、会誌発送1回、ニュースレター発送2回
名簿作成	100,000	0	2020年度で執行
選挙執行	40,000	109,498	送料、返信用封筒・告知等印刷
委託業務経費実費分			
郵送実費	100,000	38,492	ニュースレター2回、バックナンバー送付、海外向け送付等
ニュースレター印刷費	12,000	30,520	
封筒・封筒印刷費	100,000	142,560	
コピー代	10,000	3,807	
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,300,000	896,215	第27巻2号、第28巻1号
大会費			
2020年度大会貸付金	100,000	100,000	
2020年度大会準備金	100,000	100,000	
事務経費			
郵送料	15,000	29,212	資料郵送料、会誌査読郵送料等
一般事務経費	10,000	4,664	銀行振込み手数料等
広報・HP管理	10,000	9,375	サーバー/ドメイン契約料、HPサイト管理等
幹事会等出席旅費	200,000	185,884	幹事会旅費(京都2回開催うち1回新旧合同)
自然史学会連合分担金	20,000	20,000	20,000円/年
行事費			
講師謝金	30,000	3,960	談話会(WiFiルーターレンタル料)
表彰関係			
学会賞副賞	30,000	0	2020年度に執行
奨励賞副賞	0	100,000	第12回奨励賞副賞2件(2018年度分)
論文賞受賞者懇親会招待	6,000	0	
優秀発表賞関係経費	100,000	100,000	50,000円×2件
国際会議等への参加助成	50,000	0	
予備費	150,000	0	
支出合計	3,038,000	2,470,924	
次年度繰越金	4,045,783	4,589,680	

## 2. 2019年度決算報告および会計監査報告

2019年度の決算について、矢部 淳会計監査により、適正に処理されていたことが報告された。

## 3. 第5回学会賞

日本植生史学会表彰規程に則って、第5回学会賞審査委員会(能城修一委員長、紀藤典夫委員、佐々木由香委員)を設置し、審査を行った。その結果、審査委員会は第5回日本植生史学会学会賞を、西田治文氏、守田益宗氏の2氏に決定した。

授賞理由(西田治文氏):西田氏は、地球史における植

物の多様性の論理を解明するために、主に中生代の裸子植物・被子植物化石の研究を長年にわたって続けてきた。その成果は、『植物のたどってきた道』(日本放送出版協会)と『化石の植物学 時空を旅する自然史』(東京大学出版会)の2冊の著書に結実している。前者は、現在の地球上に存在する多様な植物が地球史のなかでどのように進化してきたのかを平易にまとめたもので、マイナーと言われる古植物学・植物化石研究が植物の多様性を解明するうえで、重要であることを広く知らしめた。後者は、難解とされてきた古植物学・植物化石研究の面白さを具体的に解説し、古生物学・生物学以外の分野で古植物学・植物化石研究が

果たしている大きな役割を説いたものである。植生史研究が第四紀における人類との関係性を対象とするようになりつつあるなかで、西田氏は、植生史研究の主題は地球史における植物多様性の歴史であり、その歴史を解明することと説いており、植生史研究の羅針盤のような著作であると評価される。上記の著作を裏付ける論文は数多く、裸子植物・被子植物の進化、植物の多様化に関するフィールドワークと化石観察法の技術革新は国際的に高く評価されてきた。西田氏は、自然史学会連合役員や生物多様性 JAPAN 事務局、日本学術会議の会員などを歴任されると同時に、長く日本植生史学会の評議員や事務局長等を務めて来られ、学会誌の編集や行事、渉外など学会の活動の活性化に努めてこられた。中央大学では、IPC/IOPC2012 や植生史談話会などを積極的に開催され、植生史研究、古植物学、植物化石研究の普及に努力された。日本植生史学会の活動に多様化をもたらす、こうした多岐にわたる功績から、西田氏に日本植生史学会学会賞を授与することにした。

授賞理由 (守田益宗氏)：守田氏は、花粉分析を用いた第四紀の植生史研究を進展させ、植生史学会の学会活動と教育活動に大きな貢献をした。東北地方から北海道にかけての亜高山帯の湿原堆積物の研究を精力的に行い、最終氷期以降の亜高山針葉樹林帯の植生発達史、特に偽高山帯の発達過程の解明に大きく貢献し、日本の森林生態学研究に影響を与えた。それら一連の研究や、北海道東部での植生史研究は、表層花粉と植生との詳細な比較に基づくものであり、亜高山帯や非森林域での花粉のタフオノミー研究の重要性の認識につながった。その後、山形県白鷹湖<sup>しらたか</sup>、岐阜県大湫盆地<sup>おおくて</sup>、愛媛県宇和盆地でロングコアの花粉分析を精力的に行い、第四紀後半の氷期・間氷期サイクルに伴う植生変遷を詳細に明らかにした。ニレ属-ケヤキ属などの花粉形態学的研究の成果も多数公表しており、バイカル湖や中国長江流域、チベット南部などの海外の植生史研究にも貢献した。日本植生史学会の学会活動では、長年、評議員や事務局長等を歴任し、2011 年度には会長に就任、学会運営に貢献した。さらに、岡山理科大学で行われている花粉分析の基礎についての実習講座を、植生史談話会として2回開催したほか、「植生史研究」に花粉分析の方法についての解説を公表するなど、会員の花粉分析技術の向上に貢献した。これらの植生史研究および日本植生史学会における多岐にわたる功績から、守田氏に日本植生史学会学会賞を授与することにした。

#### 4. 第5回論文賞

日本植生史学会表彰規程に則って、第5回論文賞審査委員会(西田治文委員長、守田益宗委員、山本直人委員)を設置し、審査を行った。その結果、審査委員会は第5回日

本植生史学会論文賞を、「植生史研究」第26巻第1号の論文「産状と成分からみたカラスザンショウ果実の利用法について」(真邊 彩・小畑弘己)、第27巻第1号の論文「大型植物化石群から復元した北海道北部猿払川湿原群の発達過程」(矢野梓水・百原 新・近藤玲介・宮入陽介・重野聖之・紀藤典夫・井上 京・横田彰宏・嵯峨山 積・横地 穰・横山祐典・富士田裕子)の2本に決定した。

授賞理由 (真邊・小畑論文)：現在はほとんど利用されていないミカン科サンショウ属のカラスザンショウについて、その縄文期から弥生期における利用実態を多数の文献・資料をもとに総括し、さらに同属近縁3種との形態比較によって正確な種同定を試みて、国内における当時の利用変遷を時間的・空間的に追跡し、同種が弥生後期まで広範に利用されてきたことを示した。さらに、カラスザンショウの利用目的を、その果実が含有する化学成分に着目して推定することを試み、サンショウ属3種の果実について、特にその効能が予想されるテルペノイド類の成分分析を行った。その結果、カラスザンショウは特に1,8シオネールを高濃度で含有することがわかり、さらに同成分と他のテルペノイド類が示す貯蔵穀物害虫への毒性を比較することで、1,8シオネールが対貯蔵害虫燻蒸剤として高い効果を持つことを文献上で確認した。このことに基づいて、縄文・弥生時代にはカラスザンショウが、貯蔵種実類を食害するコクゾウムシの防・駆除剤として利用されたという仮説に到達した。出土種実に加え、圧痕から検出した復元形態の比較、広範な文献調査、化学成分比較からの利用目的推定など、多彩な手法を用いて本論文が明らかにしたことは、自然資源の利用変遷史のみならず、広く植生史研究全般において高く評価されるものであり、論文賞に値すると結論した。

授賞理由 (矢野ほか論文)：本論文は、北海道最北部の猿払川下流域に発達する浅茅野西アカエゾマツ湿地林と中流域の猿払川中湿原の堆積物試料について、AMS<sup>14</sup>C年代測定法と大型植物化石分析を行うとともに、既報の中流域に位置する猿払川丸山湿原の年代資料の追加とスゲ属植物化石の再検討結果を加え、猿払川流域の約9200年前以降の湿原植生の発達・変遷過程を流域の地形環境変化とあわせて次のように明らかにした。それは、海水面の低下により、汽水生植物群落が生育していた河口域が埋積して泥炭の堆積が始まり、湿原の発達とともに抽水植物群落からハンノキ低木林へと移りかわり、やがて、中流域では高層湿原へと、下流域ではアカエゾマツ湿地林へと変化するものであった。ムセンズゲなどの北方系の湿性植物は、高層湿原の発達とともに定着した。その内容は、局地的な湿原群の発達過程報告ではあるが、他地域の研究成果とも比較しうるものとなっており、その完成度は高い。特に、湿原構

成種として重要であるが分類が難しく、従来あまり下位分類群まで同定されてこなかったスゲ属植物化石を詳細に分析することにより、湿原植生の変遷を詳細に明らかにしていることは高く評価できる。また、スゲ属植物は環境指標種となるものが多いことから、今後、この分類群の化石の利用は植生史解明に重要な役割を果たすものと期待される。以上の点から、当論文は植生史研究に大きく貢献するものとして、論文賞に値する。

#### 5. 第4回優秀発表賞

日本植生史学会表彰規程に則って、第4回優秀発表賞審査委員会（工藤雄一郎委員長）を設置し、審査を行った。その結果、第4回日本植生史学会優秀発表賞は次の4件の発表に決定した。

矢野梓水・百原 新・正木智美・加藤ゆき恵・富士田裕子  
「日本産スゲ属アゼスゲ節 25 種の瘦果の概形と表皮細胞形態に基づく分類」

森下真衣・三宅悠平・佐々木尚子・高原 光・杉田真哉「京都市八丁平におけるクリ (*Castanea crenata*) 天然林の花粉生産量一定量的植生復元の基礎資料として」

赤司千恵・門脇誠二・ファルハド = キリエフ・西秋良宏「南コーカサスにおけるヨモギ属 (*Artemisia* sp.) 利用史」

野本紗英里・佐々木由香・バンダリ = スダルシャン「武田氏館跡にみる中世の植物利用」

#### 6. 会員の除名

会則第4条hに則り、会費の長期滞納により11名の会員について、2019年12月15日までに納入がない場合は除名することとした。

#### 7. 自然史学会連合活動報告

1) 京都で開催された ICOM 会議のサイドイベントとして、国際シンポジウムとして「研究活動、資料収集、普及教育、アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究 Network of Natural History Museums as a Tool for Promoting Research, Collection building, Education and Outreach: Case Studies from Asian Regions」が、京都大学に於いて開催された（2019年9月4日）。シンポジウムに加え、9月4日と5日に京都大学総合博物館に於いてポスター発表も行われ、参加者相互の交流が図られた。

2) 自然史学会連合総会が開催された（2018年12月22日）。活動報告としてブラジル国立博物館の火災被害に対する声明文をとりまとめ、連合 HP で公開した（2018年11月26日公開）こと、『理科好きな子に育つふしぎのお話 365』の中国本土版が出版されたこと、さらにハ

ンディ版が『びっくり編』『へんてこ編』『なぜどうして編』の3部に再編集して出版されたことが報告された。審議事項では、2017年度決算および2018年度予算が承認された。事業計画として、上記の京都 ICOM 会議に於ける講演会とポスター発表を行うことが報告された。

#### 審議事項

##### 1. 2020年度事業計画

###### 1-1. 庶務

- 1) 2020年度評議員会を2019年12月7日、総会を2019年12月8日に豊橋市自然史博物館（豊橋市）にて開催する。
- 2) 第5回優秀発表賞の選定を行う。
- 3) 第13回奨励賞の選定を行う。
- 4) 幹事会を3回程度開催する。
- 5) 会員名簿を印刷・発行する。

###### 1-2. 広報・渉外

- 1) メーリングリストによる情報発信を適宜行う。
- 2) ニュースレターを編集・刊行し、配信はメーリングリストにより行う。
- 3) ホームページの保守管理および更新を行う。
- 4) 会誌「植生史研究」の PDF 化とホームページでの公開を行う。

###### 1-3. 編集

会誌「植生史研究」を編集し、第28巻第2号、第29巻第1号、2号を刊行する。

###### 1-4. 行事

- 1) 第34回日本植生史学会大会を2019年12月7日・8日に豊橋市自然史博物館（豊橋市）において開催する。大会実行委員長：吉川博章、大会実行委員：西本 寛、林 竜馬、那須浩郎。
- 2) 第47回談話会を第34回大会の巡検として開催する。テーマは「渥美層群と東海丘陵の湿地を巡る」とする。案内人：吉川博章・松岡敬二（豊橋市自然史博物館）・賛 元洋（豊橋市文化財センター）。世話人：那須浩郎。
- 3) 第35回日本植生史学会大会を2020年10月31日・11月1日に帝京大学文化財研究所（笹吹市）において開催するべく準備する。大会実行委員長：中山誠二。
- 4) 第48回談話会を開催する。第49回談話会を開催するべく準備する。

##### 2. 会計監査の選出

会計監査として半田久美子氏を選出した。

##### 3. 役員任期に関する会則の改正

これまでの任期は大会を区切りとしていたが、これを10

## 2020年度予算案(2019年10月1日～2020年9月30日)

取 入	2020年度予算	
一般・シニア・学生会員会費	1,764,000	一般会員 6,000 円× 270 人, シニア会員 3,000 円× 21 人, 学生会員 3,000 円× 27 人
団体・賛助会員会費	52,000	団体会員 8,000 円× 4 団体, 賛助会員 20,000 円× 1 社として計算
会誌売上(特別号含む)	7,000	
利息	20	
大会貸付金返金	100,000	
学術著作権	25,000	
小計	1,948,020	
前年度繰越金	4,589,680	
収入合計	6,537,700	

## 支 出

学会事務委託経費			
基本業務委託	480,000	受付業務 120,000 円, 会員管理 700 円× 342 人, メーリングリスト配信管理 15,000 円, 会誌発送 4 回等	
発送手数料	125,000	会費請求・会誌発送 4 回分, ニュースレター発送 2 回 25,000 円	
名簿作成	100,000		
委託業務経費実費分			
郵送費	39,000	会誌移動宅配、ニュースレター 2 回分 30,000 円, 海外郵送 5,000 円	
ニュースレター印刷費	31,000		
封筒・封筒印刷費	143,000	角 2 (1000 部), 角 8 (1000 部), 長 3 (1000 部), 振込用紙印刷	
コピー代	4,000		
会誌印刷費			
会誌印刷費	1,000,000	第 28 巻 2 号, 第 29 巻 1 号 2 号の 3 号分 (モノクロ印刷のみ)	
大会費			
2021 年度大会貸付金	100,000		
2021 年度大会準備金	100,000		
事務経費			
郵送費	20,000	資料郵送費等	
一般事務経費	8,000	文房具, 銀行振込み手数料等	
広報・HP 管理	10,000	サーバー/ドメイン契約料, HP サイト管理等	
幹事会等出席旅費	200,000	幹事会旅費 (東京 2 回開催), 会計監査旅費, 自然史学会連合出張旅費	
自然史学会連合分担金	20,000	20,000 円/年	
行事費			
講師謝金	30,000	談話会・巡検等	
表彰関係			
学会賞副賞	30,000	学会賞 2 名分	
賞受賞者懇親会招待	18,000	学会賞 2 名、論文賞 1 名	
優秀発表賞関連経費	110,000	30,000 円× 2 件, 50,000 円× 1 件 (2019 年度分)	
国際会議等への参加助成	50,000	50,000 円× 1 件	
予備費	100,000		
支出合計	2,718,000		
次年度繰越金	3,819,700		

月 1 日を始期, 9 月 30 日を終期とする暦日に改める。

会則の改正について賛成多数で承認された。

## 4. 優秀発表賞に関する内規の改正

これまで優秀発表賞における研究奨励費を 5 万円としていたが, 金額に関する記載を削除し, あわせて名称を研究奨励金とする。

内規の改正について賛成多数で承認された。

## 5. 2020 年度予算案

2020 年度予算案について賛成多数で承認された。

## 6. 自然史学会連合担当幹事の委嘱

自然史学会連合担当幹事を藤井伸二氏に委嘱した。

## 会員動向 (2019 年 8 月～ 2020 年 2 月)

## 新入会員 (敬称略)

右藤周悟 (学生) 島根大学大学院

菊地達郎 (学生) 千葉大学

木村 台 (学生) 京都大学

四戸莞嗣 (学生) 京都府立大学

鬼崎 華 (学生) 日本大学

松江倫代 (学生) 千葉大学

大住克博 (一般) 鳥取大学

竹本拓史（一般） 大阪市立自然史博物館  
ライペ・クリスティアン（一般） 名古屋大学

退会会員（敬称略）

魚津知克, 佐藤伸司, 遠藤眞子, 奥野絵美, 鹿島 薫, 鈴木伸一, 野本紗英里, 星野フサ, 細谷 葵

### 第12期日本植生史学会役員

（任期：2019年10月1日～2021年9月30日）

会 長：能城修一

評議員：佐々木由香, 高原 光, 百原 新, 守田益宗

会計監査：半田久美子（任期は2020年度大会～2022年度大会）

幹 事：村上由美子（庶務）, 山川千代美（会計）, 西内李佳（広報・渉外）

編集委員会：工藤雄一郎（委員長）, 吉田明弘（副委員長）

行事委員会：那須浩郎（委員長）, 林 竜馬（副委員長）

自然史学会連合担当：藤井伸二

### 各種連絡先

入会・異動・退会・購読の申し込み

（バックナンバー購入, メーリングリストアドレス登録・変更, メーリングリストへの投稿記事）

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル

（株）春恒社 学会事業部内 日本植生史学会事務局

TEL 03-5291-6231 FAX 03-5291-2176

E-Mail: hisbot-office01@shunkosha.com

その他の連絡先は、以下の通りです。

連絡・問い合わせ, 転載許可申請, シニア会員申請

庶務幹事 村上由美子

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学総合博物館

TEL 075-753-3279 FAX 075-753-3277

E-Mail: hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ, 企業広告送付先

編集委員長 工藤雄一郎

E-Mail: hbjournal@hisbot.jp

ホームページや企業広告に関する問い合わせ

広報・渉外幹事 西内李佳

E-Mail: hbnews@hisbot.jp

第26巻第1号 正誤表			第28巻第1号正誤表		
頁, 行	誤	正	頁, 行	誤	正
30 頁表 1, 7 行	宮川村	飛驒市	31 頁表 1, 75 行	三条市	胎内市
30 頁表 1, 14 行	五戸町	南部町	31 頁表 1, 76 行	三条市	胎内市
30 頁表 1, 16 行	五戸町	南部町	31 頁表 1, 79 行	奥出雲町	奥出雲市
30 頁表 1, 37 行	波片町	今治市	32 頁表 1, 24 行	加西市	姫路市
30 頁表 1, 41 行	新発田町	新発田市	32 頁表 1, 59 行	松江市	大田市
30 頁表 1, 59 行	蓮田村	蓬田村	33 頁表 1, 43 行	袋井市	磐田市
30 頁表 1, 66 行	十日町市	新発田市	33 頁表 1, 44 行	君津市	沼津市
同上	上草野 E	上車野 E	35 頁表 3, 4 行	仙波・小畑 2008	未公表
31 頁表 1, 10 行	米沢市	由利本荘市	35 頁表 3, 5 行	圧痕あり	生体化石あり（古代以降か？）
31 頁表 1, 16 行	三条市	燕市			
31 頁表 1, 28 行	福部町	鳥取市			
31 頁表 1, 54 行	羽咋市	宝達志水市			
31 頁表 1, 59 行	寒川江町	寒河江町			
31 頁表 1, 71 行	大崎氏	大崎市			

### 査読者への謝辞

植生史研究第28巻に投稿された論文等は下記の方々に査読していただきました。記して御礼申し上げます。

内山 隆	大井信夫	中山誠二	能城修一	百原 新
江口誠一	大山幹成	那須浩郎	御影雅幸	守田益宗